

「教育委員会 年度始めの式」教育長訓示

H30. 4. 2

桜の花だよりが届けられる今日、新たに着任されました西村康正教育部長をはじめとする皆さん、本日より教育部職員として、どうぞよろしく願い申し上げます。

新年度の出発に当たって、本年度も「たくましい安曇野の子ども—“自分の仕事に自信と誇りを持ち、知恵を出し、ずくを出し、汗をかき、チームで取り組む”」を合言葉に、ともに歩みたいと思います。

さて、年度の最終日 31 日（土）に、豊科公民館で開かれました「豊科郷土博物館 常設展示リニューアル・オープン記念講演会」に出席させていただきました。講演会の講師は、この日で館長を退任する百瀬新治さんと翌日から新館長を引き継ぐ原明芳さんです。お二人がリレーで新しい展示のねらいや見どころ、魅力をたっぷりと語っていただきました。

講演会のあと、お集りいただいたみなさんと一緒に郷土博に足をのぼし、常設展示「MATSURI」や、2階でちょうど開催中の企画展「野鳥×植物—つながる生命のいとなみ」を回り、“わくわく・ドキドキ”のひと時を味わいました。

郷土博は、ご存知のとおり小さな建物で、エレベーターもない古い施設です。昨年の改修でようやくエアコンが入り、明るい雰囲気ミュージアムに生まれ変わりました。しかし、どんなに素晴らしい建物であっても、そこに、子どもから大人まで幅広い年代の人たちが集いたくなるような、興味を沸き立たせるテーマ、展示、催しの工夫がなければ、博物館としての存在価値はありません。郷土博と所管する文化課とはこの6年間、市民との協働的な活動をつくり出し“ここに行けばいつでもなにかおもしろいことがある”と幅広い人たちから認知をいただき、さらに資料収集、整理、保存、調査研究等々の地道な活動の成果を『豊科郷土博物館紀要』として発行するなど、学術・文化及び生涯学習の拠点として「安曇野に郷土博あり」という確固たるステイタスを築き上げました。

予算は限られていても、スタッフ全員が「知恵とずくと汗を惜しまなければこれだけのことができるんだ」ということを実証していただいている郷土博に、私たちも続きたい、そんな思いを強くして帰路につきました。

それぞれの部署では、困難な課題は多かれ少なかれ、みな抱えています。チームとして正面から取り組みたいと思います。職員の皆さんには、最小の時間で最大の力を発揮し、健康管理にも十分留意していただくようお願いしております。

最後に、教育委員会の職員は、公務員の中でも模範的であることが求められ、そのことを期待されます。交通マナー一つとっても、平日・休日を問わず高いモラルと規範意識を持って行動していただきますようお願いいたします。

（教育長 橋渡勝也）